



2026年5月14日

各 位

会社名 株式会社 関門 海
代表者名 代表取締役社長 山口 久美子
(コード番号: 3372 東証スタンダード市場)
問合せ先 経理財務部長 関口 弘一
電話番号 072-349-9329

2026年3月期通期連結業績予想の修正及び 通期個別実績見込値と前期実績値との差異に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向を踏まえ、2025年5月14日に公表した2026年3月期(2025年4月1日～2026年3月31日)の通期連結業績予想を修正いたしました。また、2026年3月期の通期個別実績見込値につきましても、前事業年度の実績値と比較して差異が生じる見込みとなりましたので以下のとおりお知らせいたします。

記

1. 2026年3月期の通期連結業績予想数値の修正(2025年4月1日～2026年3月31日)

(単位: 百万円)

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	5,360	265	230	180	13円14銭
今回修正予想(B)	5,272	189	176	123	9円03銭
増減額(B-A)	△87	△75	△53	△56	—
増減率(%)	△1.6	△28.5	△23.2	△31.3	—
(参考)前期連結実績(2025年3月期)	5,264	327	300	378	27円60銭

2. 修正の理由

2026年3月期の連結売上高は5,272百万円を見込んでおります。当連結会計年度におきましては、個人消費に回復は見られるものの物価上昇の継続による消費者マインドの下振れ等もある中、中東情勢の悪化により外食需要にも先行き不透明感が見られました。「玄品」店舗においては、国産うなぎのほぼ全店での販売開始や玄品45周年フェアの投入、6月の京都四条店、11月の京都烏丸店の新規開店、本町店での新業態ふぐ出汁のおでんカウンターをオープンしたほか、2025大阪・関西万博のORA外食パビリオン内にて出店を行いふぐ料理の魅力を世界中の方々に発信いたしました。本社工場においては、外部への販路拡大のほか店舗負担軽減のための本社工場での一括加工にも注力するため、人員の拡充を図り生産体制強化に取り組んで参りました。その結果、連結売上高は5,272百万円(前年同期比0.2%増)と前年を上回ったものの業績予想は下回る見込みとなりました。

利益面につきましては、本部に係る売上高割合の増加や原材料費の高騰等による原価率上昇に伴い、売上総利益は3,434百万円（前期比2.1%減）となる見込みです。販売費及び一般管理費については、継続的な採用難の中、従業員待遇向上のための人件費や人手不足を背景とした臨時雇用者の人件費及び採用費高騰によるコスト増加やフェア等に伴う広告宣伝費、SEO・MEQ費用が増加したため、3,244百万円（前年同期比2.0%増）となる見込みです。以上の結果、営業利益は189百万円（前年同期比42.2%減）、経常利益は176百万円（前年同期比41.1%減）、また、特別損失として減損損失31百万円、固定資産売却損6百万円等を計上したこと等のほか繰延税金資産の取崩しに伴う法人税等調整額（損）11百万円を計上したこと等により親会社株主に帰属する当期純利益は、123百万円（前年同期比67.3%減）となる見込みです。

3. 2026年3月期 通期個別業績の前期実績値との差異（2025年4月1日～2026年3月31日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期（2025年3月期） 実績（A）	5,177	328	301	379	27円71銭
当期（2026年3月期） 実績（B）	5,176	185	178	106	7円81銭
増減額（B - A）	△0	△142	△122	△272	—
増減率（%）	△0.0%	△43.4%	△40.7%	△71.8%	—

4. 差異の理由

2026年3月期の通期個別実績値については、連結実績と同様に原価率の上昇や販売費及び一般管理費の増加に伴い営業利益は185百万円の見込みとなりました。また、特別損失として減損損失31百万円、関係会社株式評価損18百万円を計上することとなり当期純利益は106百万円となる見込みです。

なお、関係会社株式評価損については連結財務諸表上においては消去されております。

（注）本業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。

以上